

無二の会短信

◆毎年開催される秋の区民文化祭がある。参加する各団体の役員達も、八月頃から準備をはじめた。短歌連盟も、作品募集の案内を送送することから、互選点数を集めて集計するなど、当日までの準備をする。十月末の大会には、奥村晃作先生を迎えて歌評や指導があつて、一つの行事が終つた。いよいよ背後に迫ってくる冬の足音を感じながら気忙しくなってくる。

市川茂子

◆母が九十四歳で十一月に去つて、まだそう日にちが経っていませんが、生死の違いは大きいものがあります。母（静子さん）とは、亡くなる五日前に、互いに拳を打ち合わせてお別れしたのですが、延命治療を受けず（本人の意思）、兄さんが、訪問看護と担当医の来診を受けながら、在宅で看取りました。当日朝も、（手引きで）トイレに行くことができたのですが、午後には息をしていない状態となり、そのまま逝つてしまいました。悪い所も、痛いところもなかったのですが、平穏死（老衰）となるようです。父が苦しい死だったので、いくらか気休めになるところもありますが、一日一日身に滲みてくるようです。

小野澤繁雄

◆知人から体にいいからと黒ニンニクをもらった。結構な値段に驚いた。ひと球分で六百円〜七百円くらいなので、あんな小さなひと欠けで百円にもなつてしまう勘定だ。調べてみると、黒ニンニクの効能というのが凄くて、アンチエイジングの代表のように取り沙汰されているが、本当のところは分からない。効能が出る前に亡くなってしまう方がいるからだろうか、それとも実感していない方が多いからだろうか。

次なる挑戦は自家製黒ニンニク作りに決めた。

神村ふじを

◆好きなこと（一）読むこと。バス待ち時間五分でも何か読まずにいられない。（二）紙にペンで字を書く。実はケータイ、メール、ネット何一つできないせいもある。（三）ひそかに思っているのは「友達であることこそ我がアイデンティティ」。ここ数年のうちに布宮、新野、鈴木京子ちゃんのような若い親しいお友達ができたことも、とてもしあわせ。

河内愛子

◆秋日和に誘われて散歩に出た。通りがかつた小学校の活気に満ち溢れた空間に吸い込まれてしまった。御多分に漏れず、セキュリティの手続きを済ませてから会場に入った。一昔前までは、母親か祖母たちが多かったが、現在はそれぞれ自慢の撮影機器を構えている父親たちが大勢来ている。ほほえましい家族の情景には心温まるが、いろいろの事情を持つ児童もいるだろう。こういう場合に、元気な高齢者の出番はないだろうか。講習など受け、認可を受けて、少しでも世代間の心身の断層を埋めるなど役に立てるのではないかと思つてしまった。

河村郁子

◆今年の秋は、台風が大変多くやって来ました。昔のように女性名の台風でしたら、気象庁は大変だったでしょう。なにかよくない事が起こるかしらと思つてみると、熊本、鳥取で地震がありました。これ以上、災いが起こらないようにと願わずにはいられません。晩秋となりましたが、晴天が続くことを願っています。

谷垣満壽子

◆この夏、緑風出版から『検証・大規模林道』を出版した。私たち葉山の自然を守る会が呼びかけて、大規模林道問題全国ネットワークの北海道、岩手、福島、富山、広島、愛媛の仲間と共に阻止闘争史をまとめたのだ。十月一日に出版祝賀会を東京で開いた。運動に関わった元衆議院議員、新聞記者らが集まってくれた。私たちの運動は、彼らの大きな協力があり、実施主体の特殊法人を廃止させ勝利することができた。残念なことに現在、環境問題に精神的に取り組む国会議員やジャーナリストのなんと少ないことか。資本の論理で山や川の破壊が進んでいる。天災も多発している。暗澹たる思いだ。

新野祐子

◆この秋はひどい天候不順で、雨が降りつづいたり、十月下旬というのに夏のような暑さが現れたりする。ことに私の家は午後から西日が差してかなり暑くなるので、いまだに半袖の服を着ている。そういえば毎年十月初めになると方ぼうから漂ってくる金木犀の香が、今年は花は咲いているのにさっぱり香ってこない。雨のせいかな、へんに暑いせいかどちらだろうと不思議に思っている。

松井淑子

◆鈴木京子さんが亡くなられて驚いている。鈴木さんのコーナーが始まってから、「展景」が手許に届くと、一番はじめにその頁を開いた。お顔も声も知らないけれど、文章と写真で人柄に親しみを感じ、読ませていただいていた。こんなことになるとは知らず、まだまだ続くと思っていた。が、鈴木さん本人は六年前に死を覚悟の上での農業だったそうだ。それほどまでに何故？と聞きたい気もするが……。ご冥福を心からお祈りいたしております。

丸山弘子

◆それは、本当にアツという間だった。いつの間にか、ハルの背が私を追い越した。ハルの足が私の足より大きくなった。まだ、抜かされていないのは体重ぐらい。声は少し低くなったようだ。少年が少しずつ大人に変化していく過程を間近で見ることのできる幸福を味わっている。来年初夏、母の十三回忌を行います。母もどこかで、ハルの成長を見てくれるだろうか。

山内裕子

◆三週間ほどかけてアフリカのエチオピア、モザンビーク、南アフリカ、ボツワナと回ってきた。つくづく感じたことは、アフリカ大陸の広大さである。移動にはヘリコプター、セスナ機、プロペラ機などが空のタクシーのように使われている。未分化のエネルギをひしひしと感じた旅であった。

結城 文

◆あと一カ月で、母や叔母達の齢を越えることになる。冬になると、風呂上がりには必ず呼ばれて手足のあかぎれの手当を手伝った。いわしの頭を炭にして、ご飯粒と練り合わせたものを傷口に塗り込むのがいつもだった。暖房もままならなかった当時を考えると、家事の仕事上では避けられない事情だったのである。それにつけても現在の環境は、実に恵まれている。今年の冬は、例年より寒さが厳しいような気がする。諺に「楽あれば苦あり」とあるように、そのうちに四季の移ろいも冷夏や暖冬などと、正常ではない極端な気候の繰り返し訪れるようになるかもしれない。

池田桂一